

# 市民アンケート調査結果報告書

平成23年9月

足 利 市



1 調査の概要	1
① 調査の目的	1
② 調査の方法	1
③ 調査項目	1
④ 回収状況	1
⑤ 留意点	1
2 調査結果	2
(1) 基本属性	2
① 性別	2
② 年齢	2
③ 職業	3
④ 通勤・通学先	3
⑤ 居住年数	4
⑥ 家族構成	4
⑦ 住宅	5
⑧ 居住地区	5
(2) 足利市総合計画での取り組み	6
① 満足度	6
①—2 満足度(加重平均値)	7
①—3 満足度(加重平均値)経年変化	8
② 重要度	9
②—2 重要度(加重平均値)	10
②—3 重要度(加重平均値)経年変化	11
■ 満足度上位5位	12
■ 重要度上位5位	13
■ 満足度と重要度の関連(分布図)	14
■ 自由記載意見等	15
(3) その他の調査事項	17
① ボランティア活動等への参加	17
② 健康づくりのための実践	18
③ 「あしかがみ」の閲読	19
④ 足利市ホームページの閲覧	20
⑤ 市政情報の入手手段	21
⑥ 「市議会だより」の閲読	22
⑦ 「住宅用火災警報器」の設置	23
⑧ 期日前投票制度の認知度	24
⑨ 投票時間の変更	25
⑩ 災害に対する安全性	26
⑪ 災害時の避難判断	27

# 1 調査の概要

## ① 調査の目的

足利市では、第6次総合計画に基づいたまちづくりを進めていますが、市民が日常生活を通して感じる市の取り組みに対する満足度、重要度等の意見をお聴きし、総合計画の進行管理に役立てようとするものです。

## ② 調査の方法

- (1) 対象者 住民登録する満20歳以上80歳未満の市民1,500人
- (2) 抽出方法 住民基本台帳から等間隔無作為抽出（H23. 5. 1現在）
- (3) 調査方法 郵送調査（ハガキによる催告1回）
- (4) 調査期間 平成23年5月20日～6月11日

## ③ 調査項目

- (1) 基本属性
- (2) 足利市総合計画での取り組み
- (3) その他の調査事項
- (4) 自由意見

## ④ 回収状況

- (1) 配付数 1,500
- (2) 有効回収数 881
- (3) 有効回収率 58.7%

### ■ 性別

	男	女	不明
配付数	762	738	
有効回収数	399	460	22
有効回収率	52.4%	62.3%	

### ■ 年代別

	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明
配付数	185	259	260	255	332	209	
有効回収数	71	119	138	158	233	140	22
有効回収率	38.4%	45.9%	53.1%	62.0%	70.2%	67.0%	

### ■ 地区別

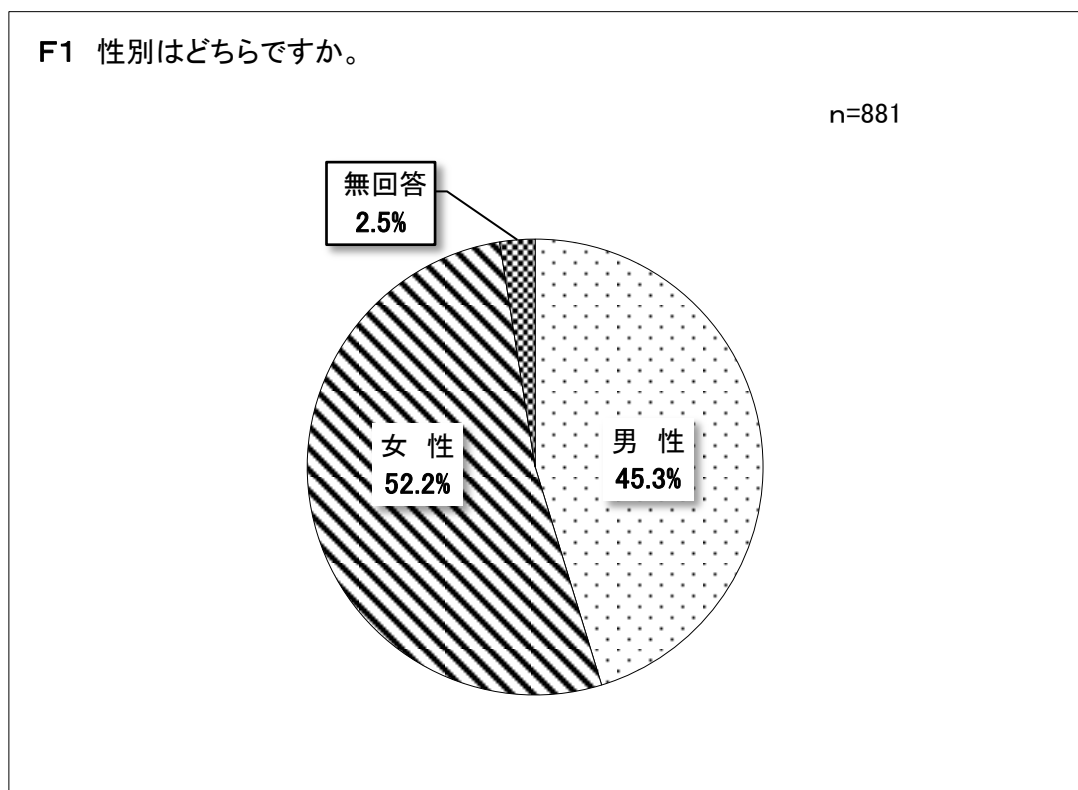
	旧市内	毛野・富田	三重・山前・三和・ 葉鹿・小俣	北郷・名草	山辺・矢場川・御厨・ 久野・梁田・筑波	不明
配付数	272	199	396	158	475	
有効回収数	167	117	215	89	266	27
有効回収率	61.4%	58.8%	54.3%	56.3%	56.0%	

## ⑤ 留意点

割合は、小数点以下第2位を四捨五入のため、合計が100%とならない場合があります。

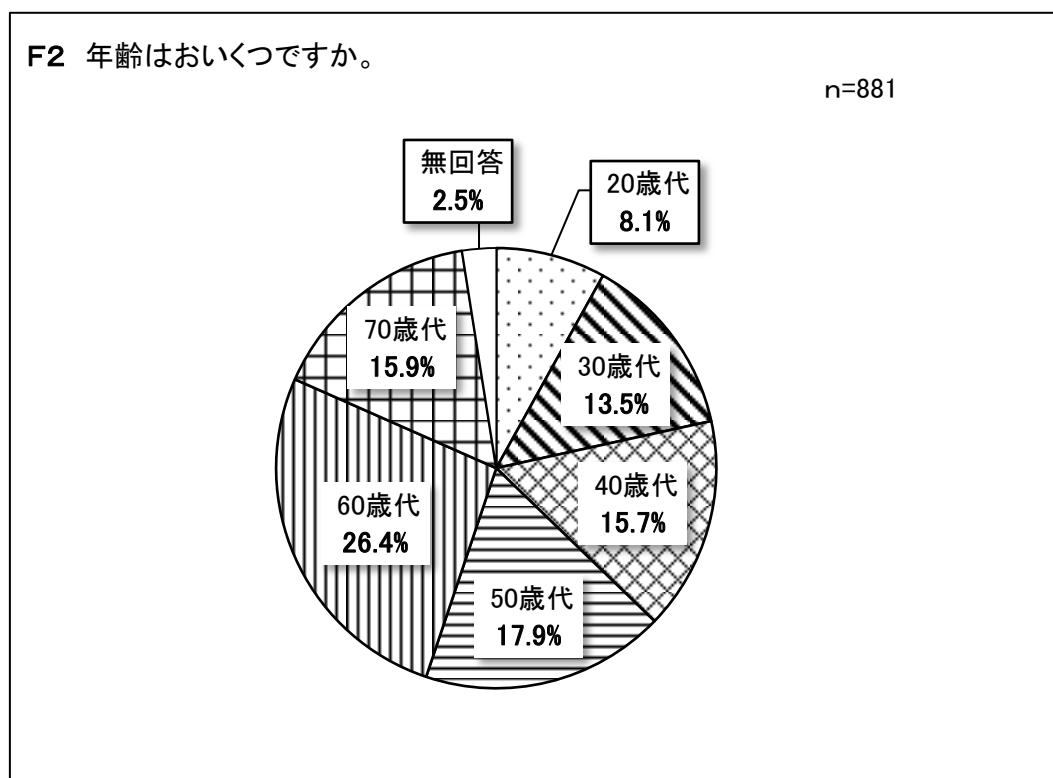
## 2 調査結果

### (1) 基本属性① 性別



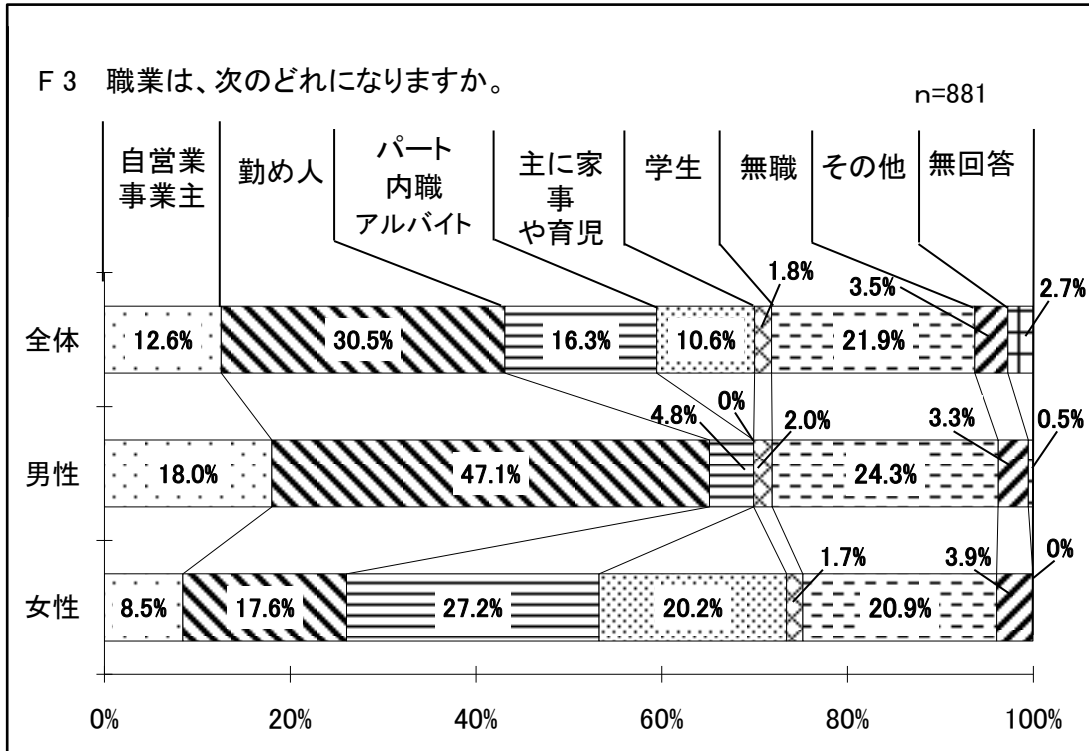
性別は、「女性」が52.2%、「男性」が45.3%となっています。

### ② 年齢



年齢は、「60歳代」が26.4%で最も多く、次いで「50歳代」、「70歳代」となっています。

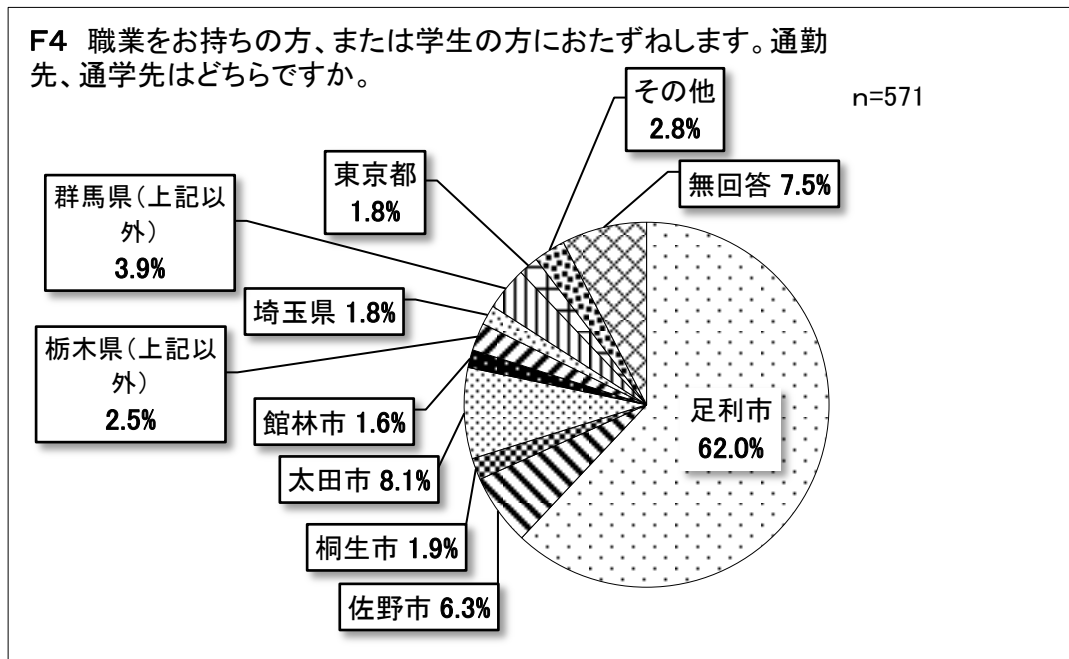
### ③ 職業



職業は「勤め人」が30.5%、「パート・内職・アルバイト」が16.3%、「自営業・事業主」が12.6%となっており、合計した59.4%の方が『働いている方』となります。

『働いている方』の割合は、男性が69.9%、女性が53.3%となっています。

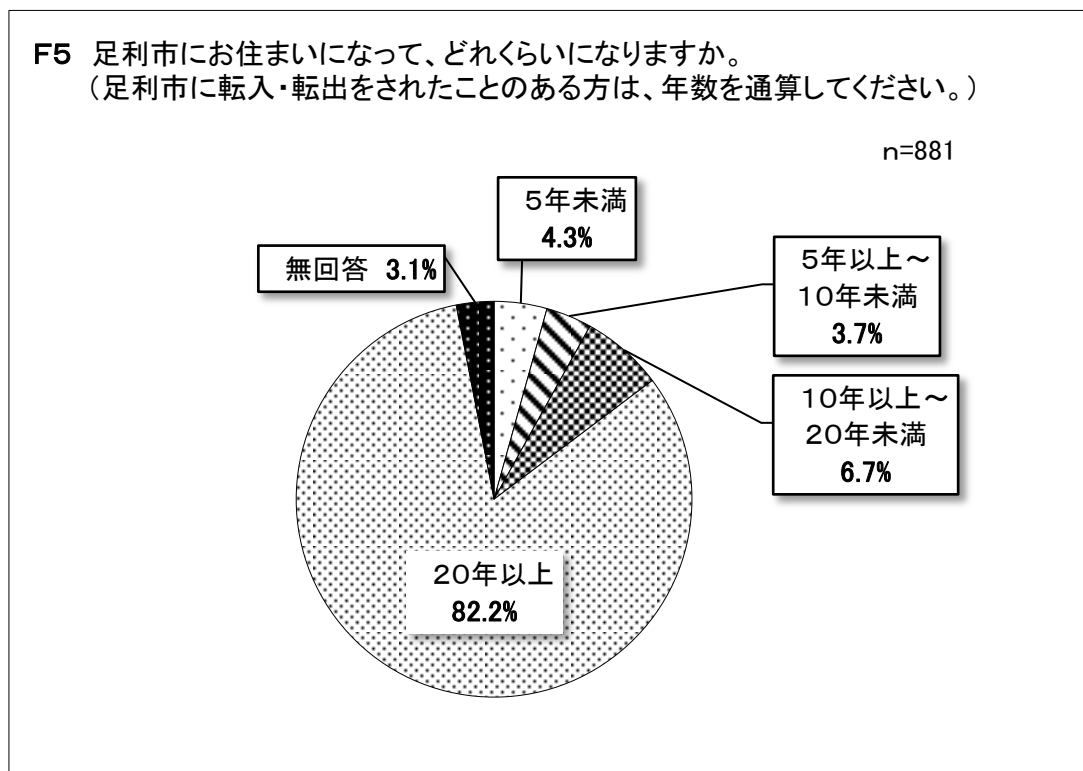
### ④ 通勤・通学先



『働いている方』の通勤・通学先は、「足利市内」の68.0%が最も多く、次いで「太田市」が8.1%、「佐野市」が6.3%となっており、「桐生市、太田市、館林市以外の群馬県」が3.9%となっています。

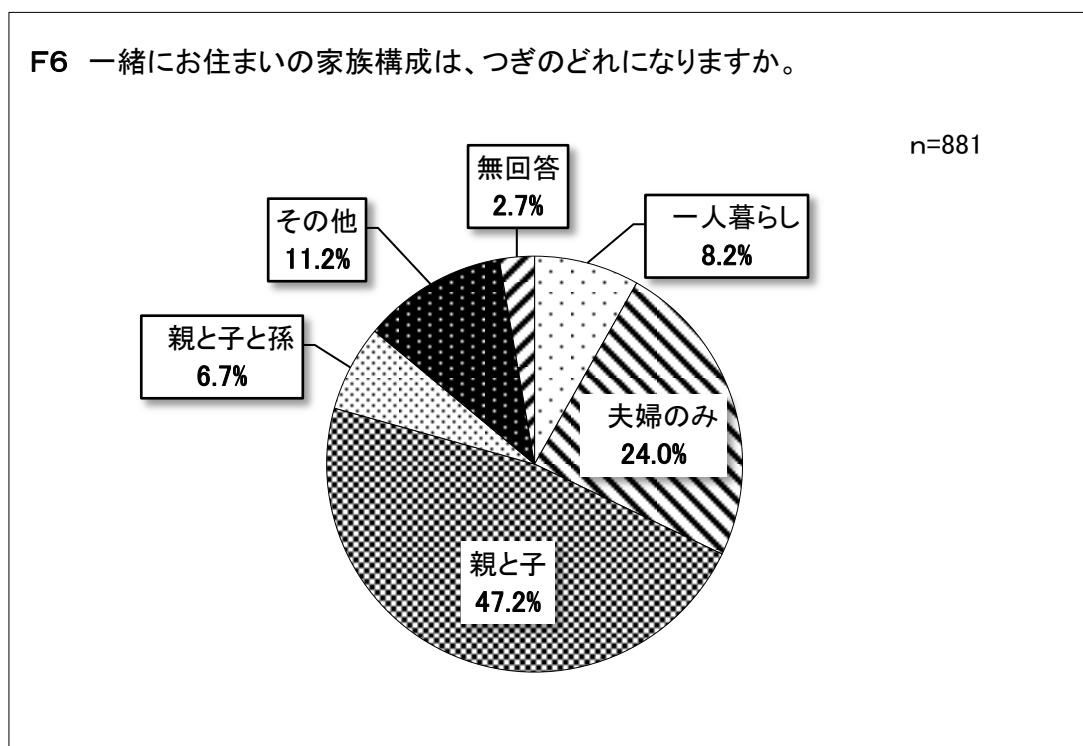
(なお、回答者のうち、「学生」は16人であり、全体の傾向に対する影響は少ない。)

⑤ 居住年数



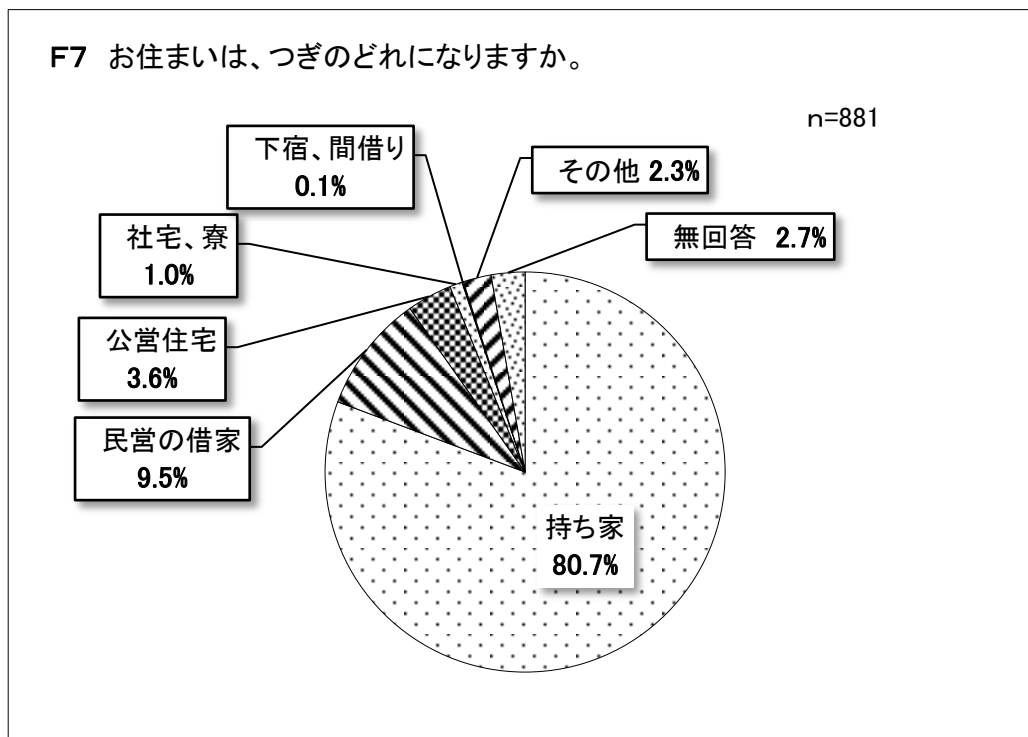
居住年数は、「20年以上」が82.2%と大多数を占め、次いで「10年以上～20年未満」が6.7%、「5年未満」が4.3%となっています。

⑥ 家族構成



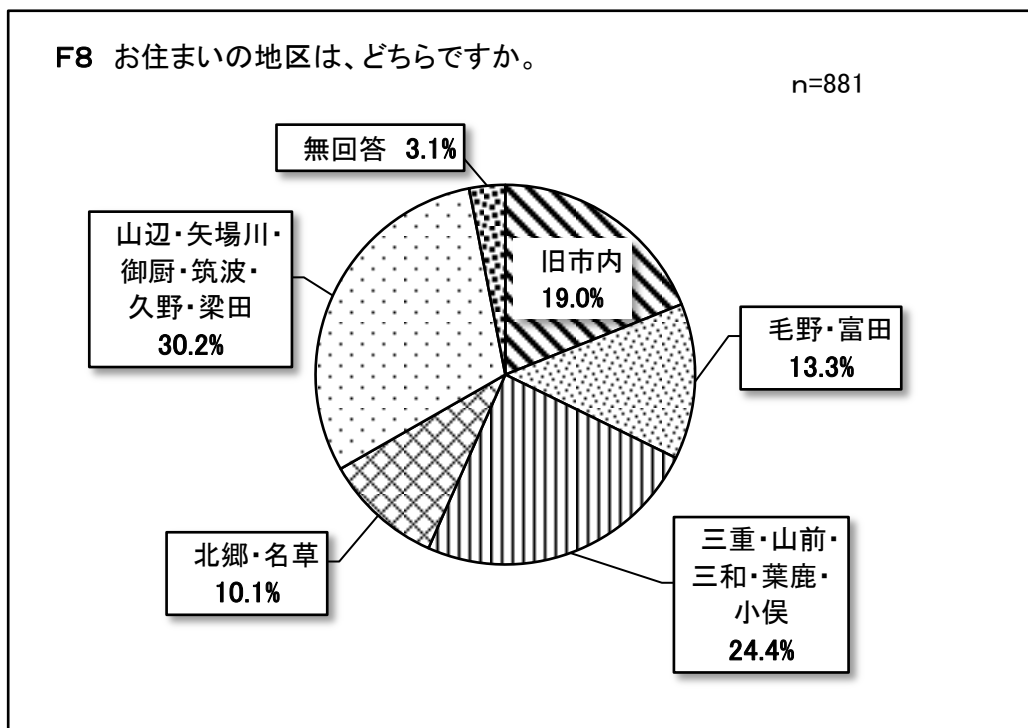
家族構成は、「親と子」が47.2%、「夫婦のみ」が24.0%、「一人暮らし」が8.2%となっています。また、「親と子」、「夫婦のみ」に「一人暮らし」を加えた『核家族』の割合は、79.4%となっています。

⑦ 住 宅



自宅は、「持ち家」が80.7%で圧倒的に多く、「民営の借家」、「公営住宅」、「社宅、寮」、「下宿、間借り」の合計が14.2%となっています。

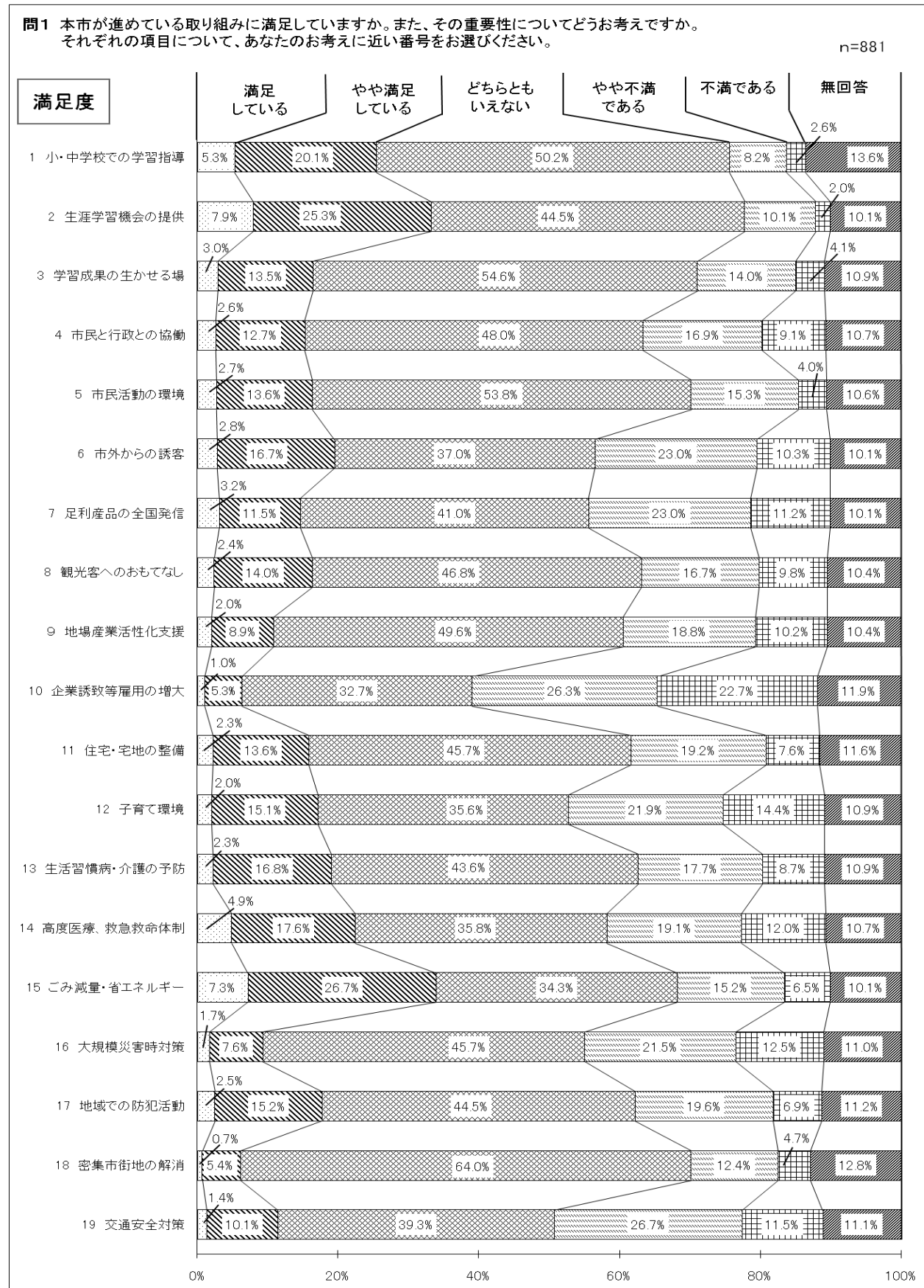
⑧ 居住地区



市内を5つのブロックに分けた居住地区は、南部の「山辺・矢場川・御厨・筑波・久野・梁田」が30.2%、西部の「三重・山前・三和・葉鹿・小俣」が24.4%、「旧市内」が19.0%、東部の「毛野・富田」が13.3%、北部の「北郷・名草」が10.1%となっています。

## (2) 足利市総合計画での取り組み

### ①満足度





① ー 2 満足度（加重平均値）

図1 満足度（加重平均値）



満足度加重平均値

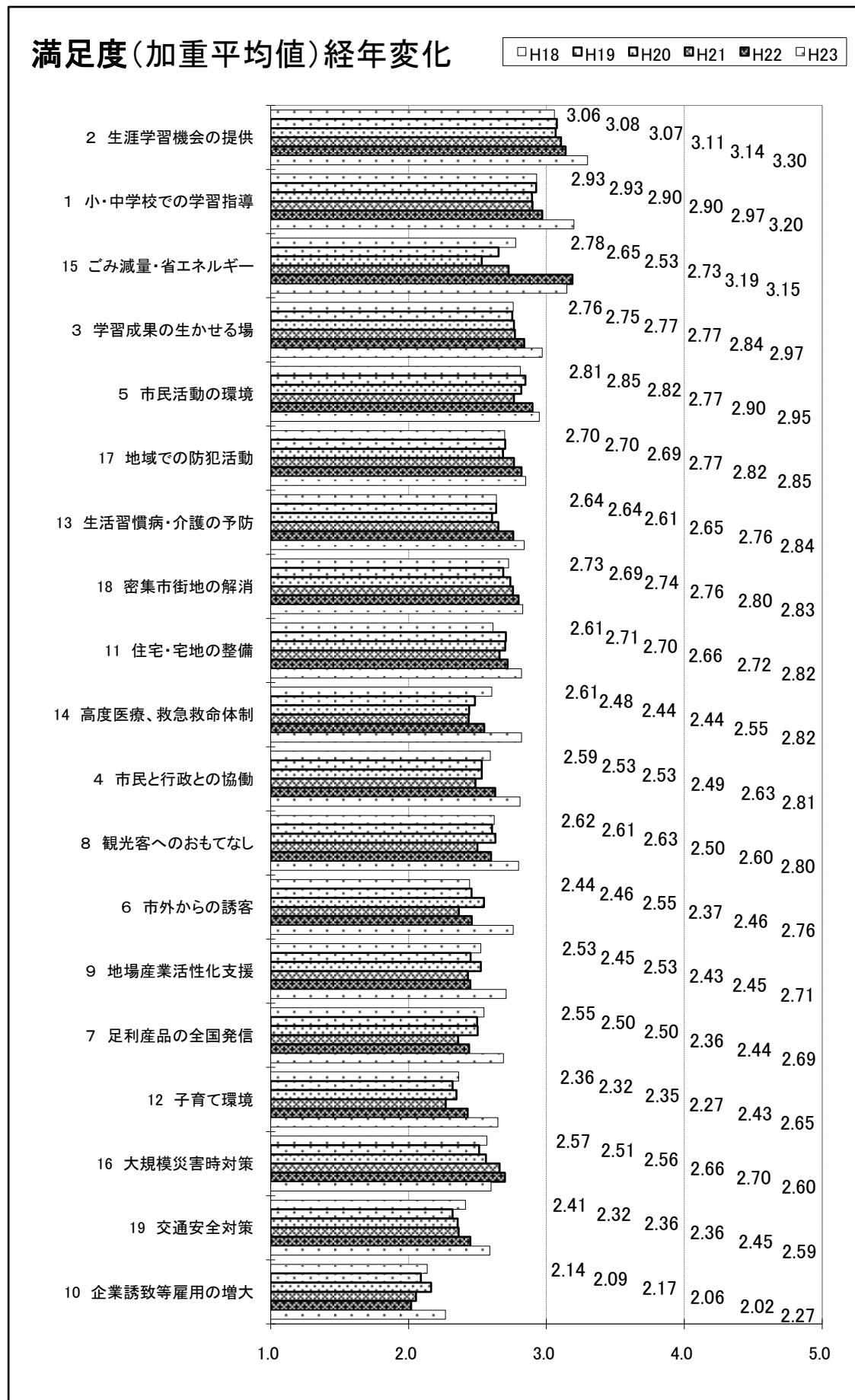
$$\frac{A \times 5 + B \times 4 + C \times 3 + D \times 2 + E \times 1}{\text{回答者総数} - F}$$

回答者総数 - F

- A：満足している
- B：やや満足している
- C：どちらともいえない
- D：やや不満である
- E：不満である
- F：無回答

「満足」と「不満」の分岐点となる「どちらともいえない」を3として加重平均値を求めた結果、「生涯学習機会の提供」が最も高い値となりました。

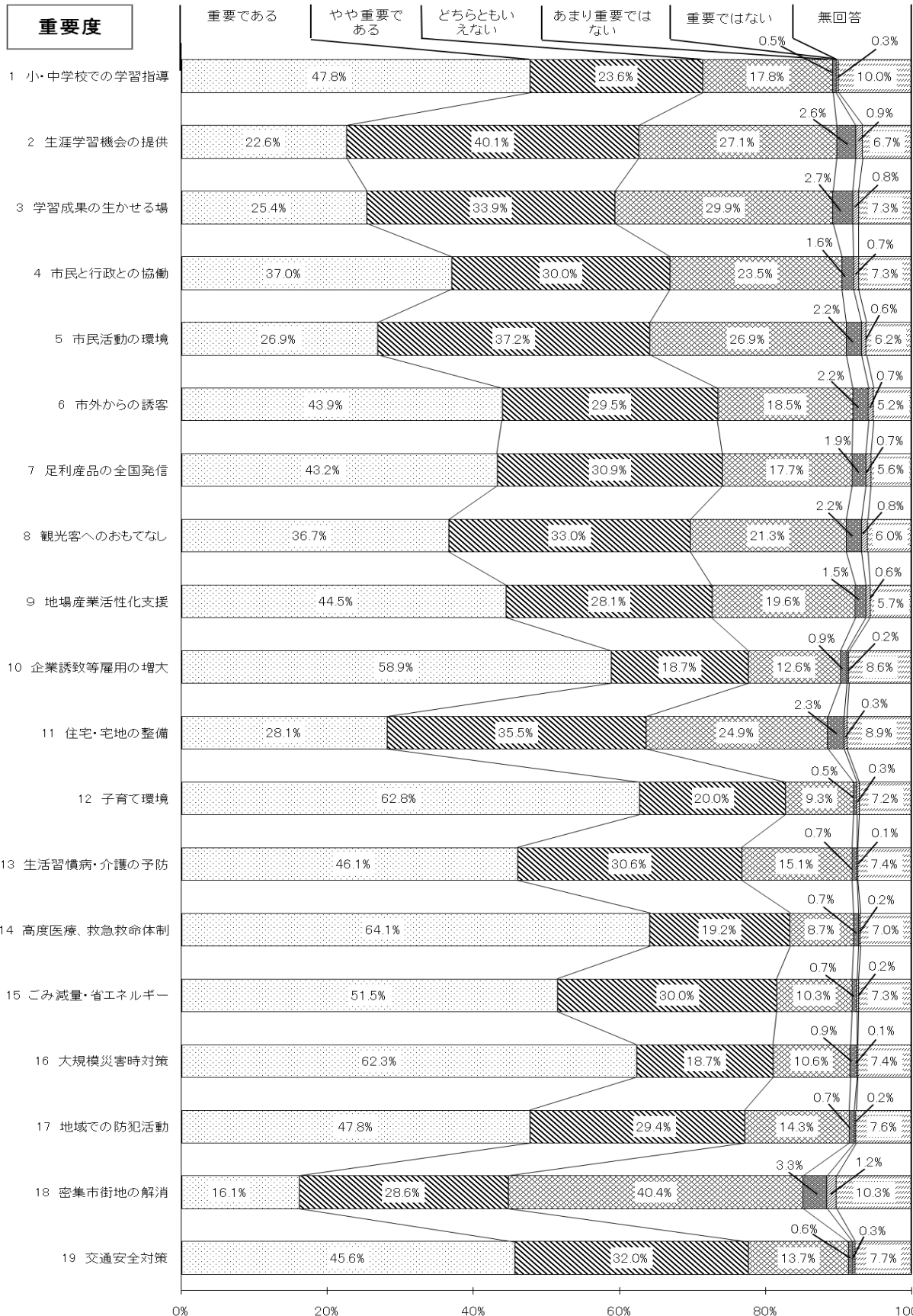
①-3 満足度（加重平均値）経年変化



## ② 重要度

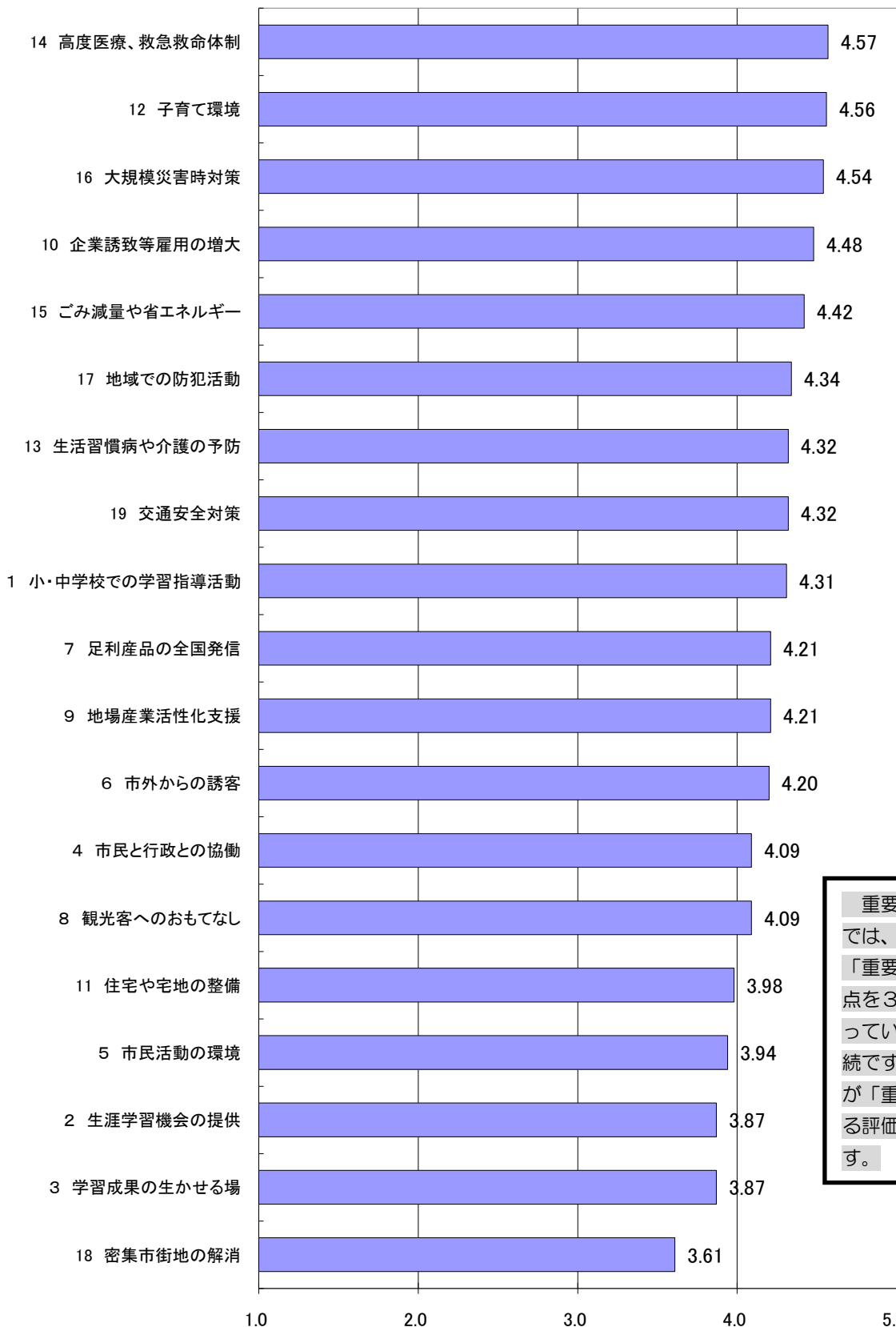
問1 本市が進めている取り組みに満足していますか。また、その重要性についてどうお考えですか。  
それぞれの項目について、あなたのお考えに近い番号をお選びください。

n=881



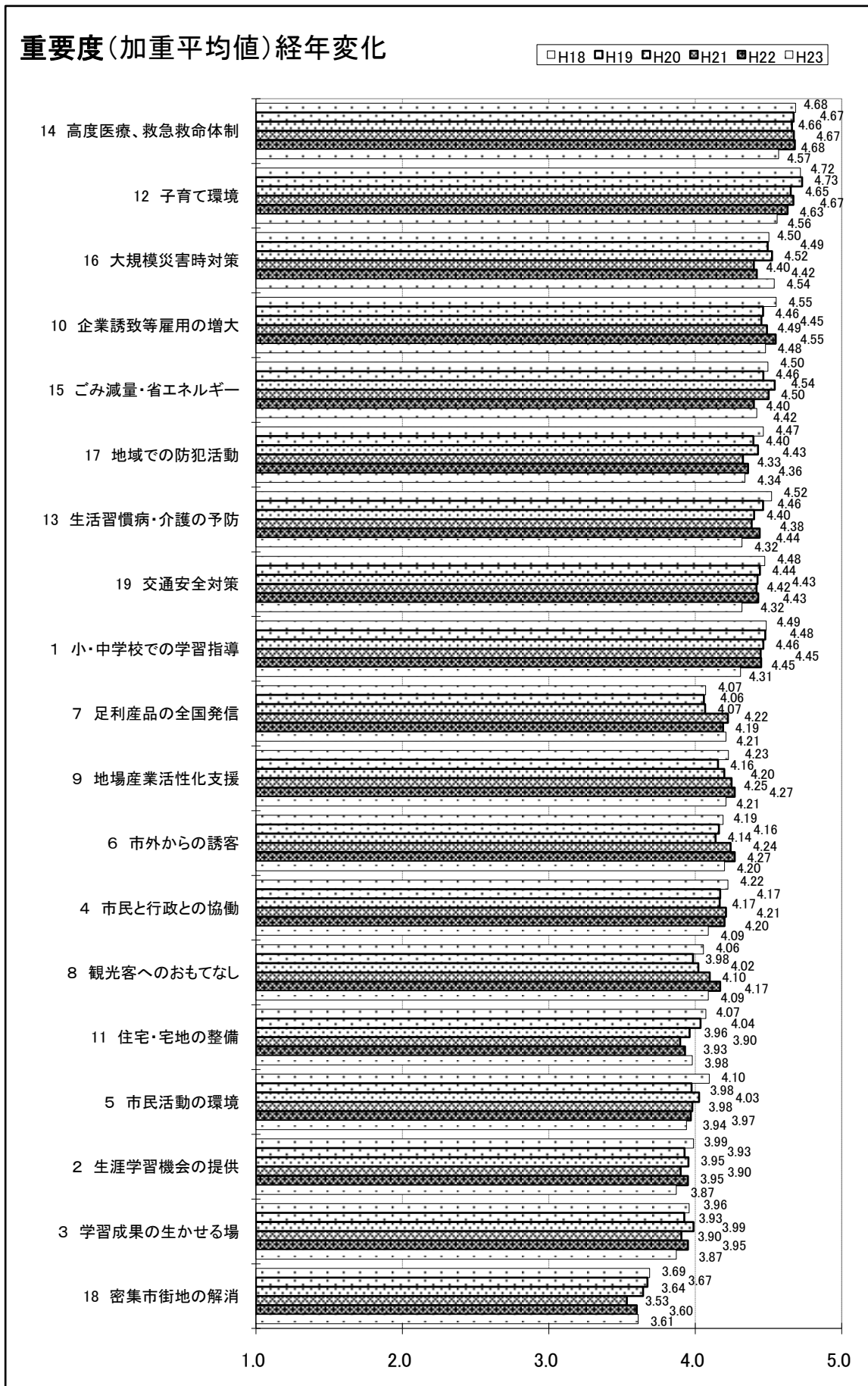
②-2 重要度（加重平均値）

図2 重要度（加重平均値）



重要度の加重平均値では、「重要である」と「重要でない」の分岐点を3とする数値となっていますが、5年連続ですべての取り組みが「重要」側に位置する評価となっています。

② 一3 重要度（加重平均値）経年変化



■ 満足度上位5位

		1	2	3	4	5
全体		2 生涯学習 機会の提供	1 小・中学校 での学習指導 活動	13 生活習慣 病や介護の 予防	7 足利産品 の全国発信	5 市民活動 の環境
		3.30	3.20	3.15	2.97	2.95
性別	男	2 生涯学習 機会の提供	1 小・中学校での学習指導 活動 / 15 ごみ減量や省エネ エネルギー		3 学習成果の生かせる場 / 5 市民活動の環境	
		3.26	3.14		2.92	
	女	2 生涯学習 機会の提供	1 小・中学校 での学習指導 活動	15 ごみ減量 や省エネルギ ー	3 学習成果 の生かせる場	5 市民活動 の環境
		3.33	3.25	3.16	3.00	2.98
年齢	20 歳代	1 小・中学校 での学習指導 活動	2 生涯学習 機会の提供	6 市外から の誘客	5 市民活動 の環境	15 ごみ減量 や省エネルギ ー
		3.14	3.00	2.97	2.94	2.93
	30 歳代	2 生涯学習 機会の提供	1 小・中学校 での学習指導 活動	15 ごみ減量 や省エネルギ ー	5 市民活動 の環境	3 学習成果 の生かせる場
		3.26	3.16	3.11	3.05	2.96
	40 歳代	2 生涯学習 機会の提供	1 小・中学校 での学習指導 活動	3 学習成果 の生かせる場	15 ごみ減量 や省エネルギ ー	5 市民活動 の環境
		3.27	3.04	2.95	2.91	2.84
	50 歳代	2 生涯学習 機会の提供	1 小・中学校 での学習指導 活動	15 ごみ減量 や省エネルギ ー	17 地域での 防犯活動	5 市民活動 の環境
		3.23	3.19	3.15	2.95	2.91
	60 歳代	2 生涯学習 機会の提供	1 小・中学校 での学習指導 活動	15 ごみ減量 や省エネルギ ー	3 学習成果 の生かせる場	5 市民活動 の環境
		3.45	3.26	3.23	3.05	2.98
	70 歳以上	15 ごみ減量 や省エネルギ ー	1 小・中学校での学習指導 活動 / 2 生涯学習機会の提 供		14 高度医 療、救急救命 体制	3 学習成果 の生かせる場
		3.45	3.37		3.18	3.15

■ 重要度上位5位

		1	2	3	4	5
全体		14 高度医療、救急救命体制	12 子育て環境	16 大規模災害時対策	10 企業誘致等雇用の増大	15 ごみ減量や省エネルギー
		4.57	4.56	4.54	4.48	4.42
性別	男	10 企業誘致等雇用の増大	14 高度医療、救急救命体制	12 子育て環境	16 大規模災害時対策	15 ごみ減量や省エネルギー
		4.57	4.48	4.46	4.42	4.38
	女	14 高度医療、救急救命体制	12 子育て環境/ 16 大規模災害時対策		15 ごみ減量や省エネルギー	19 交通安全対策
		4.67	4.64		4.47	4.45
年齢	20 歳代	12 子育て環境	16 大規模災害時対策	14 高度医療、救急救命体制	17 地域での防犯活動	13 生活習慣病や介護の予防
		4.59	4.56	4.46	4.44	4.43
	30 歳代	12 子育て環境	16 大規模災害時対策	14 高度医療、救急救命体制	17 地域での防犯活動	1 小・中学校での学習指導活動
		4.69	4.66	4.61	4.42	4.41
	40 歳代	12 子育て環境	14 高度医療、救急救命体制	16 大規模災害時対策	1 小・中学校での学習指導活動/ 10 企業誘致等雇用の増大	
		4.67	4.62	4.56	4.50	
	50 歳代	12 子育て環境/ 14 高度医療、救急救命体制		10 企業誘致等雇用の増大/ 16 大規模災害時対策		15 ごみ減量や省エネルギー
		4.55		4.52		4.39
	60 歳代	14 高度医療、救急救命体制	10 企業誘致等雇用の増大	16 大規模災害時対策	15 ごみ減量や省エネルギー	12 子育て環境
		4.59	4.55	4.50	4.48	4.46
	70 歳以上	14 高度医療、救急救命体制	15 ごみ減量や省エネルギー	10 企業誘致等雇用の増大	16 大規模災害時対策	12 子育て環境
		4.57	4.52	4.50	4.48	4.45

■ 満足度と重要度の関連（分布図） <縦軸：満足度 横軸：重要度>





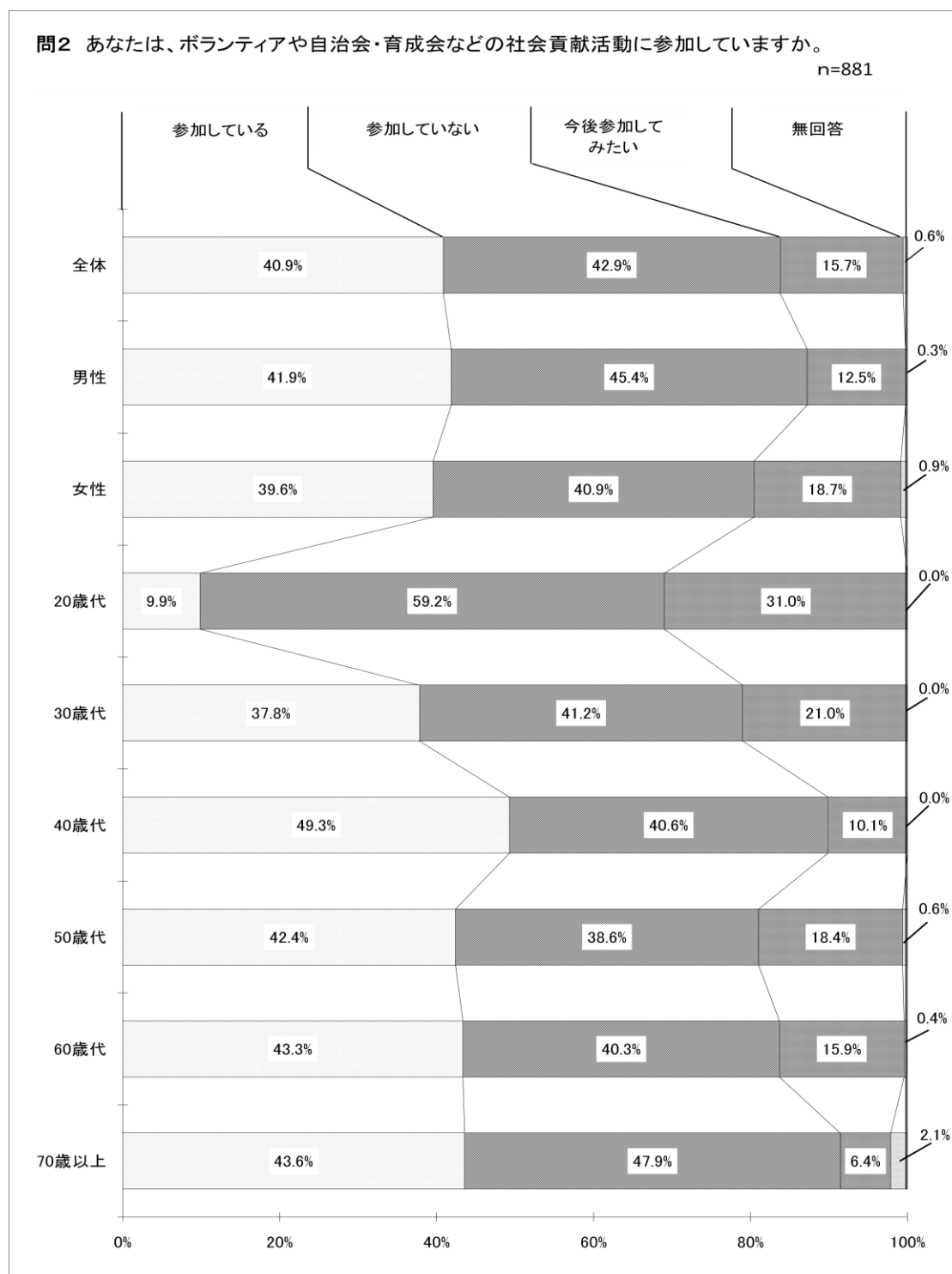
## ■ 本市の取り組みに対する自由記載意見等

<b>1 小・中学校での学習指導活動の充実</b>		
○ 学業以外にもマナー教育や部活動を充実してほしい	5件	
○ 教師の指導力不足を感じる	4件	
○ 少人数制にし、一人ひとりに目の行き届いた教育をしてほしい	3件	
<b>2 生涯学習の様々な学習機会・場の提供</b>		
○ 参加したいが年齢制限や時間がなく参加できない	5件	
○ 催し物が市中心部に偏っている	3件	
<b>3 学んだことが様々な活動に生かせる場づくり</b>		
○ ボランティアなど生かせる場をつくることは大切	5件	
○ 学んだことを生かせる場が少ない	3件	
<b>4 市民と行政との協働の取り組み</b>		
○ 街の活性化のために「協働」は重要である	6件	
○ 市の「協働」に対する方向性がよくわからない	4件	
<b>5 ボランティアなどの市民活動がしやすい環境づくり</b>		
○ ボランティアの経験がない、参加したことがない	4件	
○ ボランティアの活動を活かすことは重要	4件	
○ 活動のための環境づくりや情報提供が少ない	3件	
<b>6 市外から多くの来訪者に来ていただくための取り組み</b>		
○ 魅力ある施設を増やし、インフラ整備を進めるべき	10件	
○ もっとメディアを活用してPRを強化すべき	8件	
○ 街の活性化には重要なため強化すべき	4件	
<b>7 足利産品の全国発信の取り組み</b>		
○ 産品の知名度が低い	6件	
○ アピールが少ない、もっとPRすべき	6件	
○ どのような活動をしているのか、よくわからない	3件	
<b>8 観光客へのおもてなしの向上の取り組み</b>		
○ 観光客の受け入れのための整備が不足している	8件	
○ PRが重要、もっと強化すべき	4件	
○ 市民のおもてなし意識の高揚が必要	3件	
<b>9 地場産業活性化の支援</b>		
○ 地場産業の活性化は重要、市内産業に活力が無い	8件	
○ 活性化のための取組みが良く分からない	5件	
<b>10 企業誘致等による雇用の増大の取り組み</b>		
○ 市内に働く場所が少ない、特に若年層の働く場がない	13件	
○ 企業誘致による街の活性化は重要、強化すべき	8件	
○ 企業誘致の成果が見えない、近隣市より遅れている	5件	
<b>11 住宅・宅地の整備</b>		
○ 高齢者向けの整備や対策が重要	3件	
○ 税収が減少しているため、むやみな整備は不要	3件	
○ 道路の幅員が狭い、道路整備が遅れている	3件	
<b>12 安心して子どもを産み育てる環境づくり</b>		
○ 公園などの子どもが安心して遊べる場所が少ない	8件	
○ 街灯を増やすなど、子どもの安全確保が必要	7件	
○ 保育料、医療費などの負担が大きい	6件	
<b>13 生活習慣病・介護の予防対策</b>		
○ 介護予防事業や介護サービスを充実して欲しい	5件	

○ 各自の取り組みが必要だと思う	4件
○ 検診の機会を増やして欲しい	3件
<b>14 高度医療、救急救命体制の整備・充実</b>	
○ 受け入れ態勢を充実して欲しい	8件
○ 新足利赤十字病院に期待	3件
<b>15 ごみ減量や省エネルギーへの取り組み</b>	
○ ごみ分別のさらなる細分化と再資源化の徹底をすべき	7件
○ ごみ袋値下げはごみを増やしてしまう	3件
○ 足工大などとの連携で風力や太陽光発電の取組みを行う	3件
<b>16 大規模災害時への対策</b>	
○ 市の災害対策内容がわからない	8件
○ 避難場所に指定されている施設が機能するのか疑問	3件
○ 災害避難マップなどを配布してほしい	2件
<b>17 地域における防犯活動の推進</b>	
○ 街灯が少ない、暗い	5件
○ 具体的な活動内容がわからない	4件
○ 小学生が一人で下校しているなど安全確保が不十分	2件
<b>18 密集市街地の解消への取り組み</b>	
○ 密集市街地といえるところがあるのか疑問	2件
○ 道路、駐車場など複合的な整備であってほしい	2件
<b>19 高齢者や障害者など誰もが安心して移動できる交通安全対策</b>	
○ 路線バスの増便と範囲の拡充をしてほしい	7件
○ 車いすで移動できるくらいの歩道の整備をしてほしい	3件
○ 自動車に頼らない新たな交通手段の整備を望む	3件

### (3) その他の調査事項

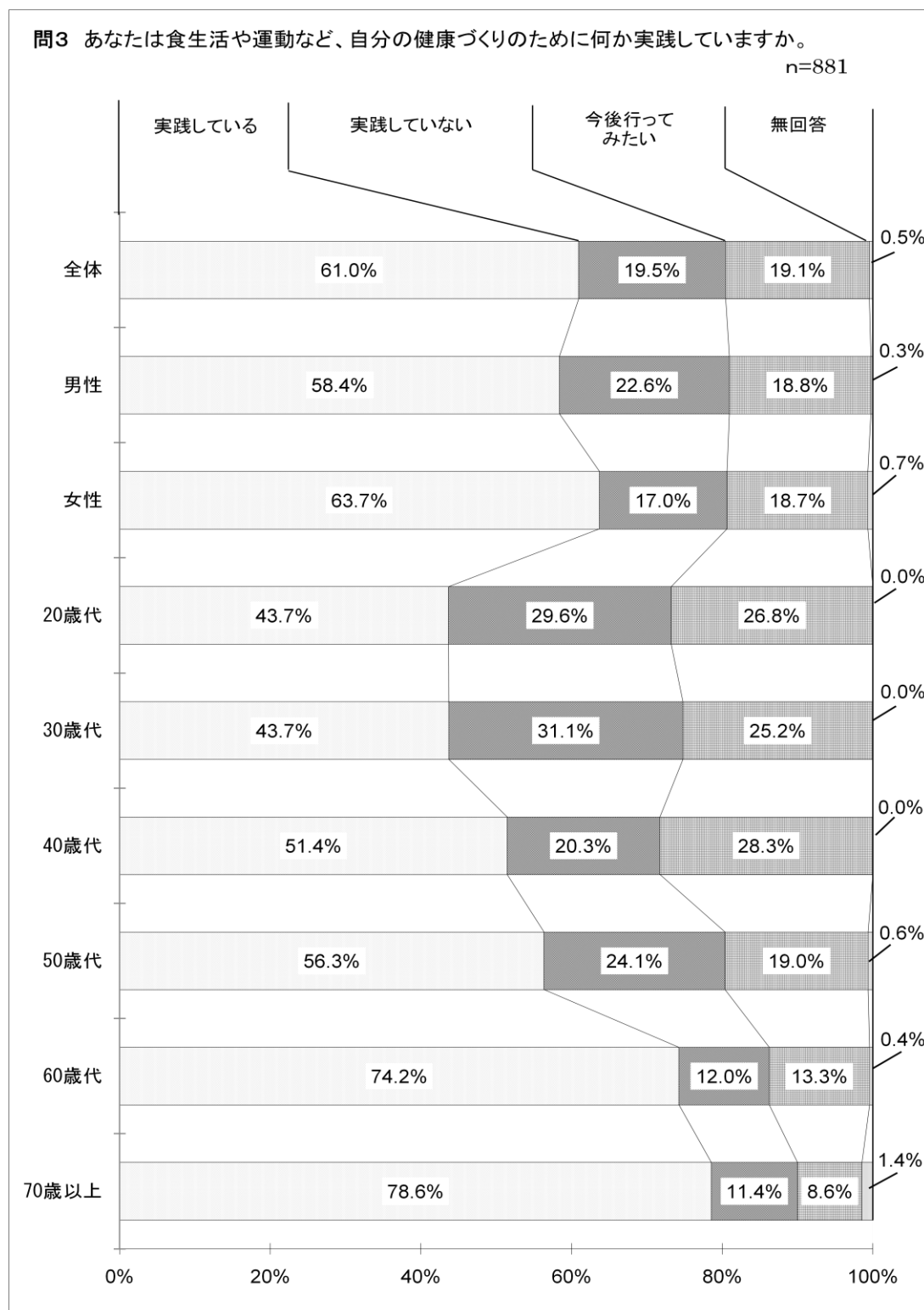
#### ① ボランティア活動等への参加



ボランティア活動等に「参加している」方の割合は、40.9%

ボランティアや自治会・育成会などの社会貢献活動に「参加している」方の割合を性別で見ると男性の方が41.9%と割合が高く、年代別では、40歳代が最も高くなっています。また、「参加していない」方の割合では20歳代が最も高い割合となっています。

## ② 健康づくりのための実践

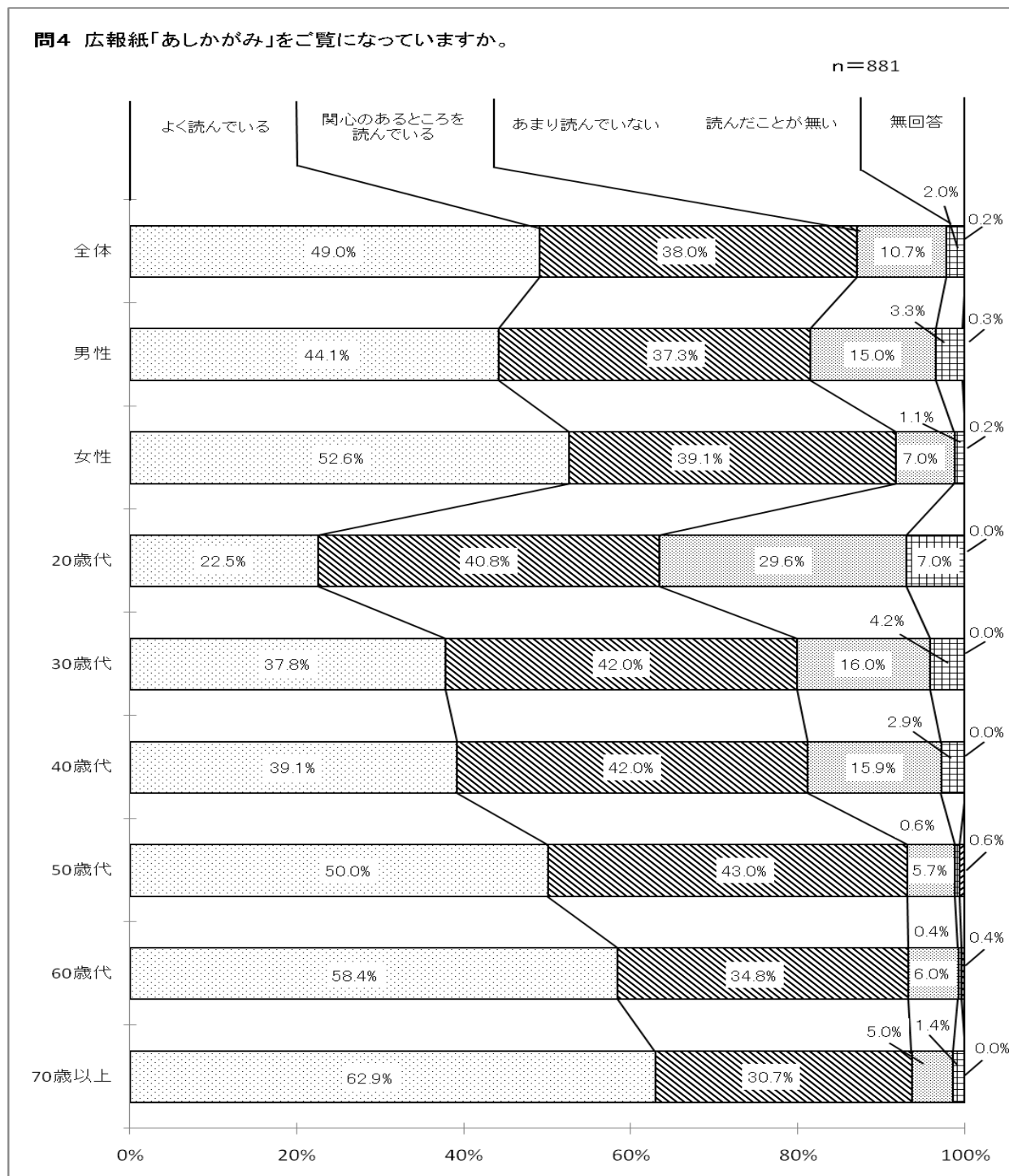


健康づくりを「実践している」方の割合は、61.0%

食生活や運動などで健康づくりを「実践している」方の割合は、男性よりも女性の方の割合が高くなっています。

また、年代別では、60歳以上の方が約70%を超えるなど、年齢が高くなるほど実践率も高くなる傾向がみられます。

### ③ 「あしかがみ」の閲読



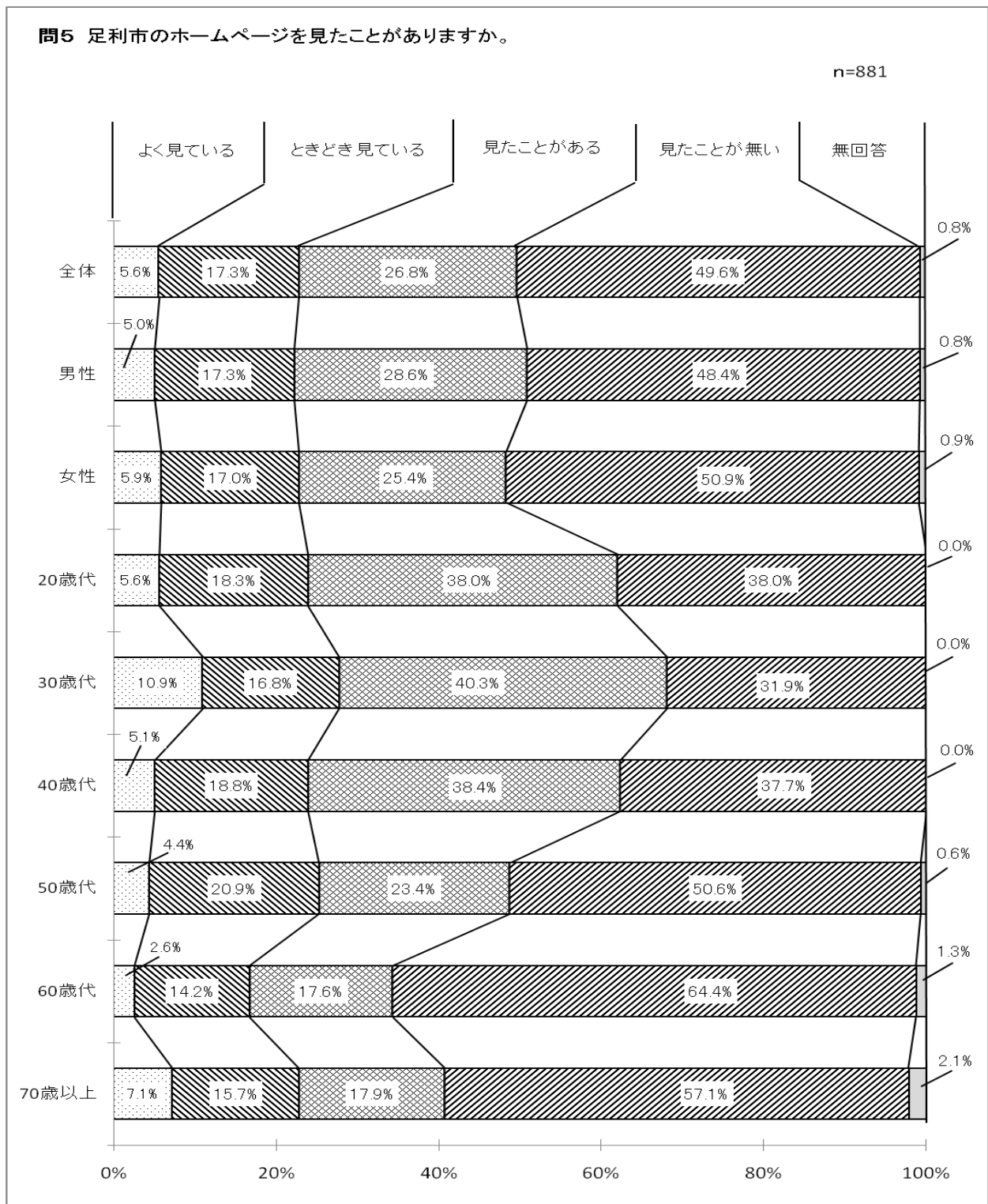
広報紙「あしかがみ」の閲読率は、87.0%

「あしかがみ」を「よく読んでいる」方は49.0%、「関心のあるところを読んでいる」方は38.0%で、これを合計すると、『読んでいる』方の割合は87.0%となります。

性別では、女性の方は半数以上の方が「よく読んでいる」結果となっており、『読んでいる』方の割合は91.7%となっています。

年代別では、「よく読んでいる」方の割合は、年代が上がるに従ってより高くなる傾向にあり、70歳以上の62.9%が最も高くなっています。

#### ④ 足利市ホームページの閲覧

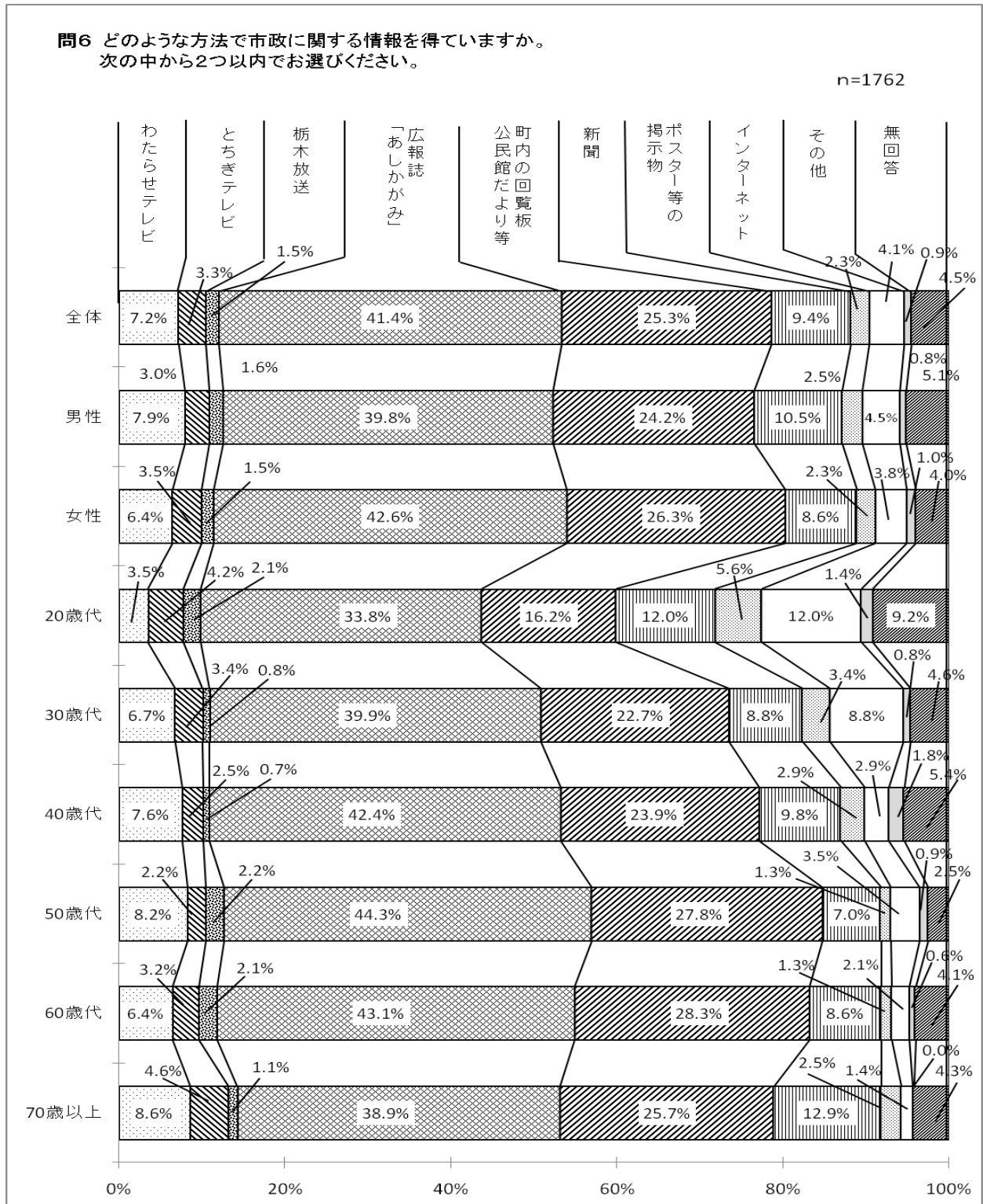


足利市ホームページの閲覧率は、49.7%

足利市のホームページを「よく見ている」方の割合は5.6%、「ときどき見ている」方は17.3%、「見たことがある」方は26.8%であり、これらを合計すると、ホームページの閲覧率は49.7%となります。

性別では、男性の閲覧率が高く、30歳代の閲覧率68.0%と60歳代の34.4%とでは、年代によって閲覧率に倍程度の差が出ていることとなります。

⑤ 市政情報の入手手段

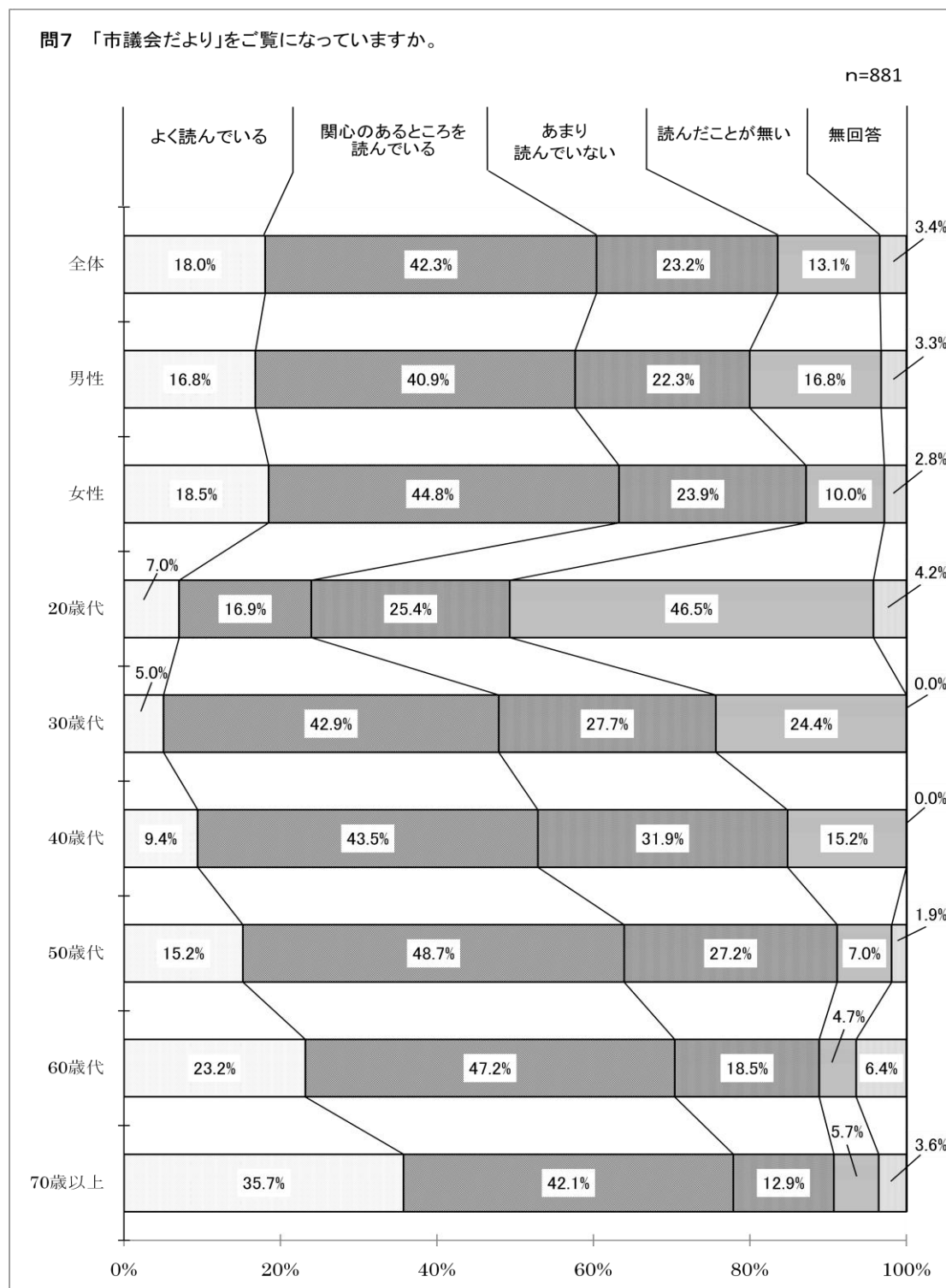


市政情報の入手手段は、「あしかがみ」が41.4%

市政に関する情報の入手手段では、割合の高い順に広報紙「あしかがみ」が41.4%、「町内の回覧板」が25.3%、「新聞」が9.4%となっております。

性別やどの年代の方々においても過半数の方が広報紙「あしかがみ」と「町内の回覧板」で市政情報を得ていることとなります。

## ⑥「市議会だより」の閲読



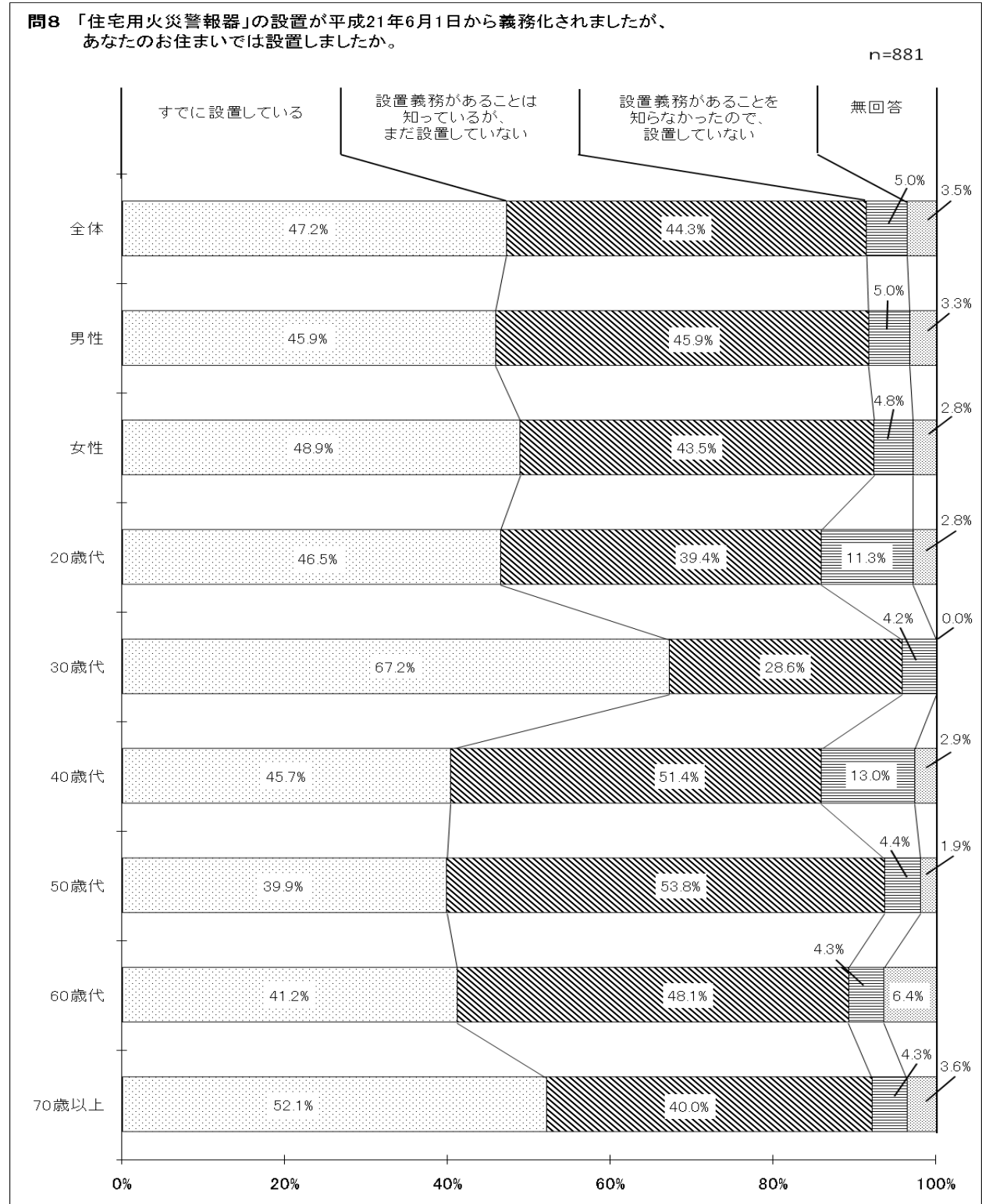
「市議会だより」の閲読率は、60.3%

「市議会だより」の閲読については、「よく読んでいる」方の割合が18.0%、「関心のあるところを読んでいる」方の割合が42.3%であり、これらを合わせた閲読率は60.3%となっています。性別では、女性の方の閲読率が高く63.3%となっています。

年代別では、「広報紙あしかがみ」と同様の傾向を示し、70歳以上の77.8%となるなど、年代が上がるに従って、閲読率が高くなっています。



## ⑦ 「住宅用火災警報器」の設置

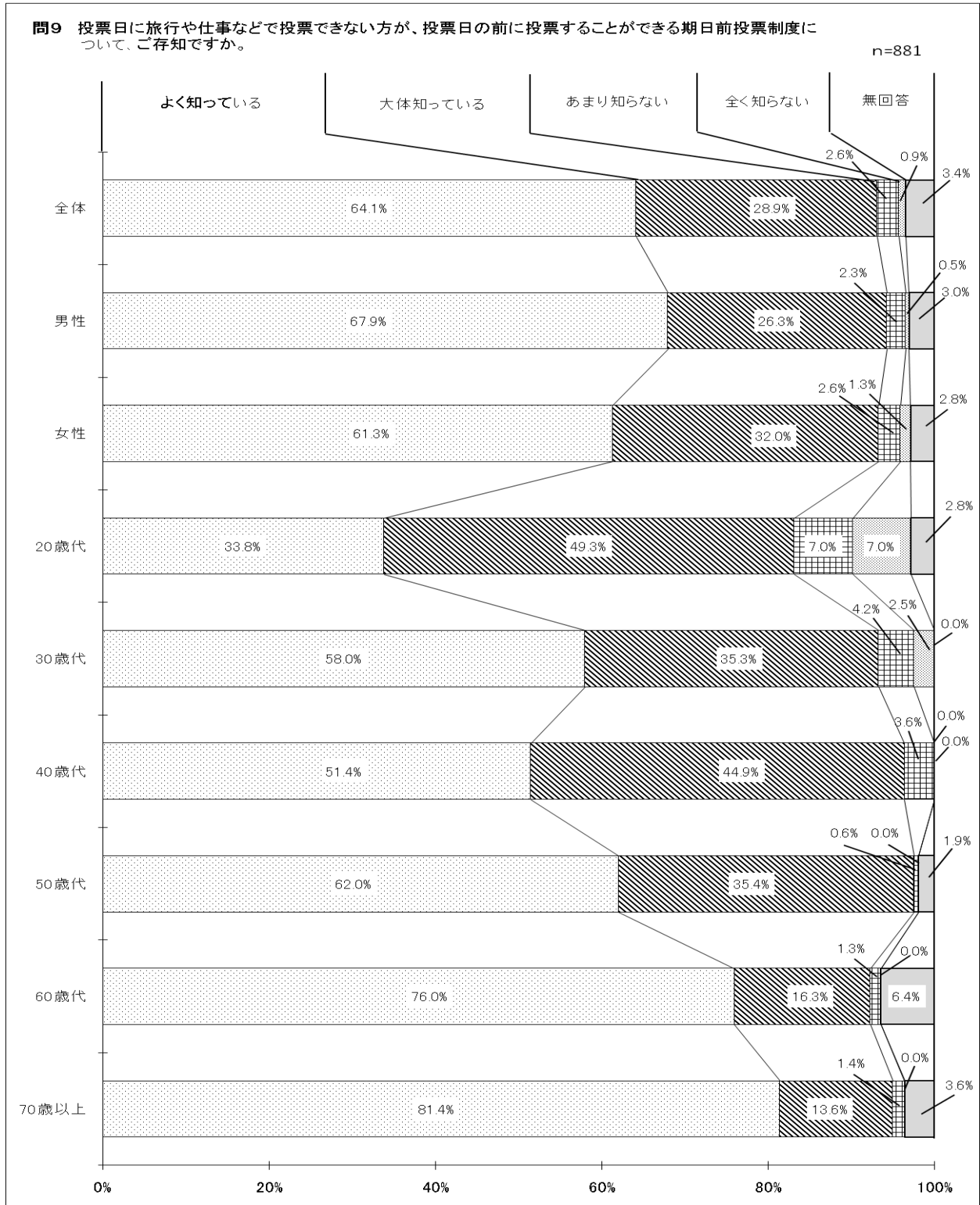


「住宅用火災警報器」を設置している方の割合は47.2%

「住宅用火災警報器」の設置率は47.2%で、30歳代の方の世帯が最も高く、67.2%となっています。

また、平成21年中に設置が義務化されましたが、それを知らなかった方が20歳代、40歳代の方の世帯で10%以上いる結果となるなど、若い世代に対し、いかに広報を行うのが課題として挙げられます。

## ⑧ 期日前投票制度の認知度

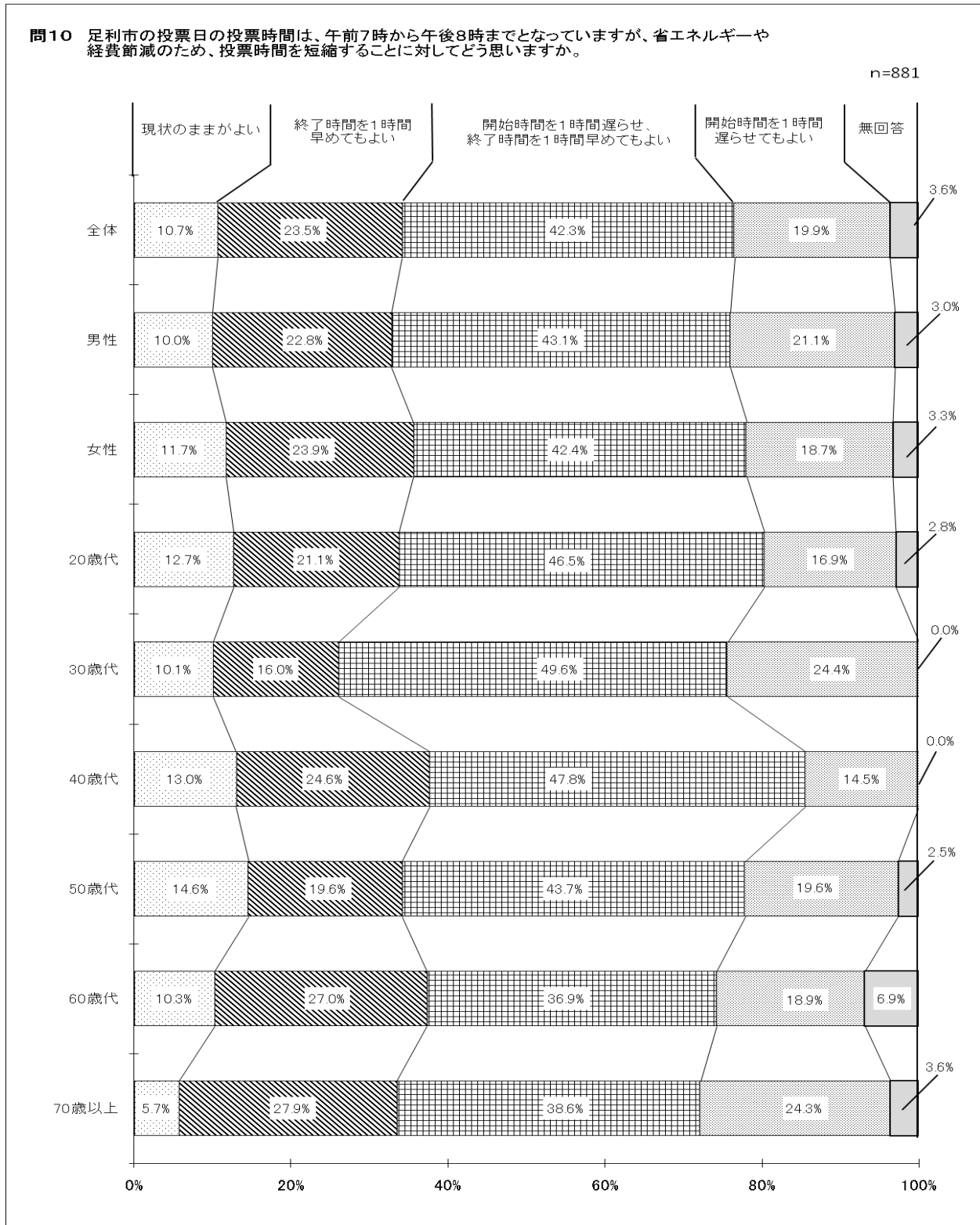


期日前投票制度の認知されている方の割合は93.0%

期日前投票制度を知っている方の割合は93.0%となっており、制度を全く知らない方の割合が0.9%であることから、多くの方に認知されていることがみられます。

また、20歳代の方において、「あまり知らない」「全く知らない」方の割合が14.0%となるなど、若い世代の認知率が他の世代よりもとても低いものとなっています。

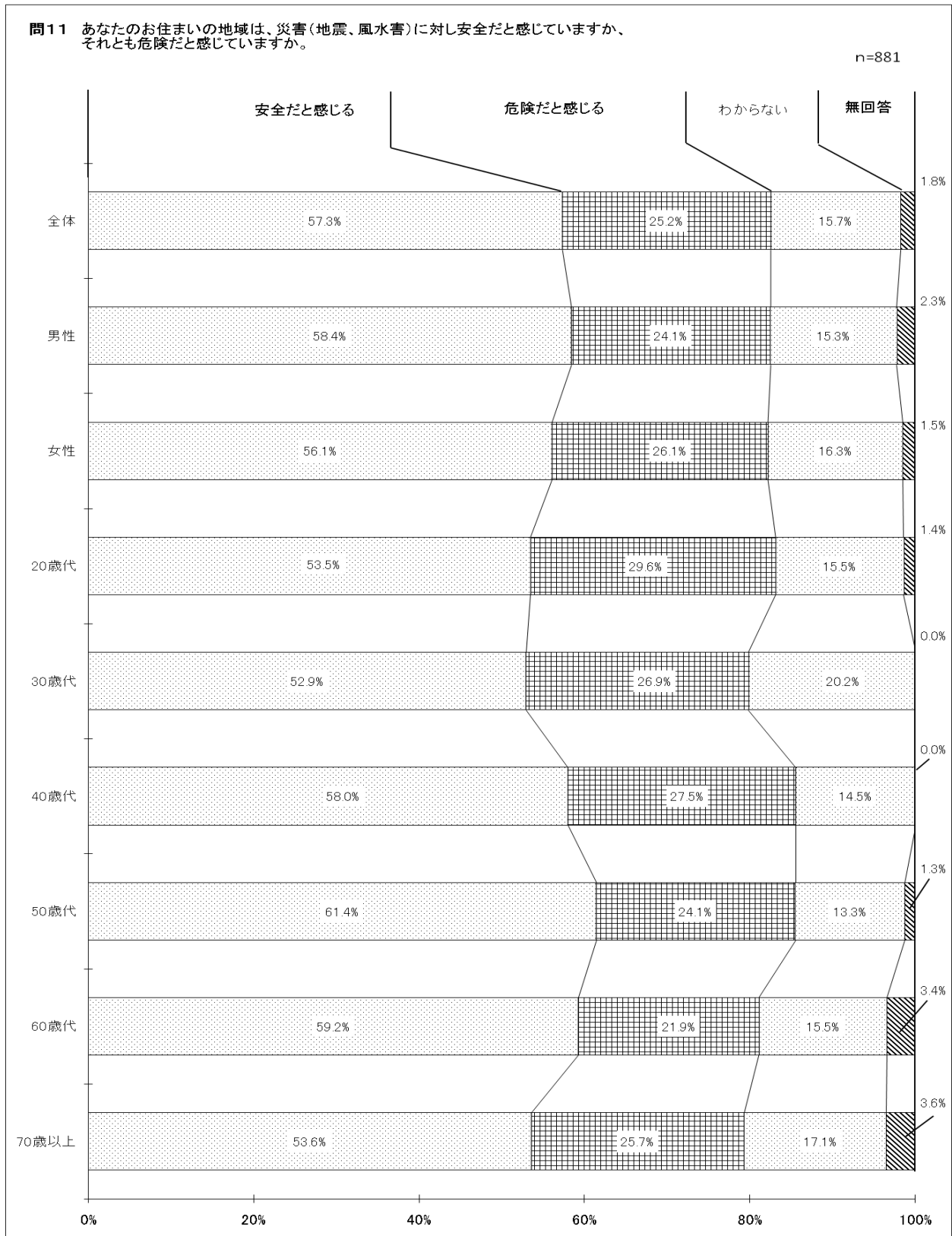
## ⑨ 投票時間の変更



投票時間を短縮しても良いという方の割合は85.7%

投票時間について「現状のままだがよい」という方と「無回答」の方を除いた、投票時間を短縮しても良いという考えの方の割合は85.7%で、そのうち終了時間については、1時間早めてもよいという方が合計で65.8%、開始時間については、1時間遅らせてもよいという方が合計で62.2%となりました。

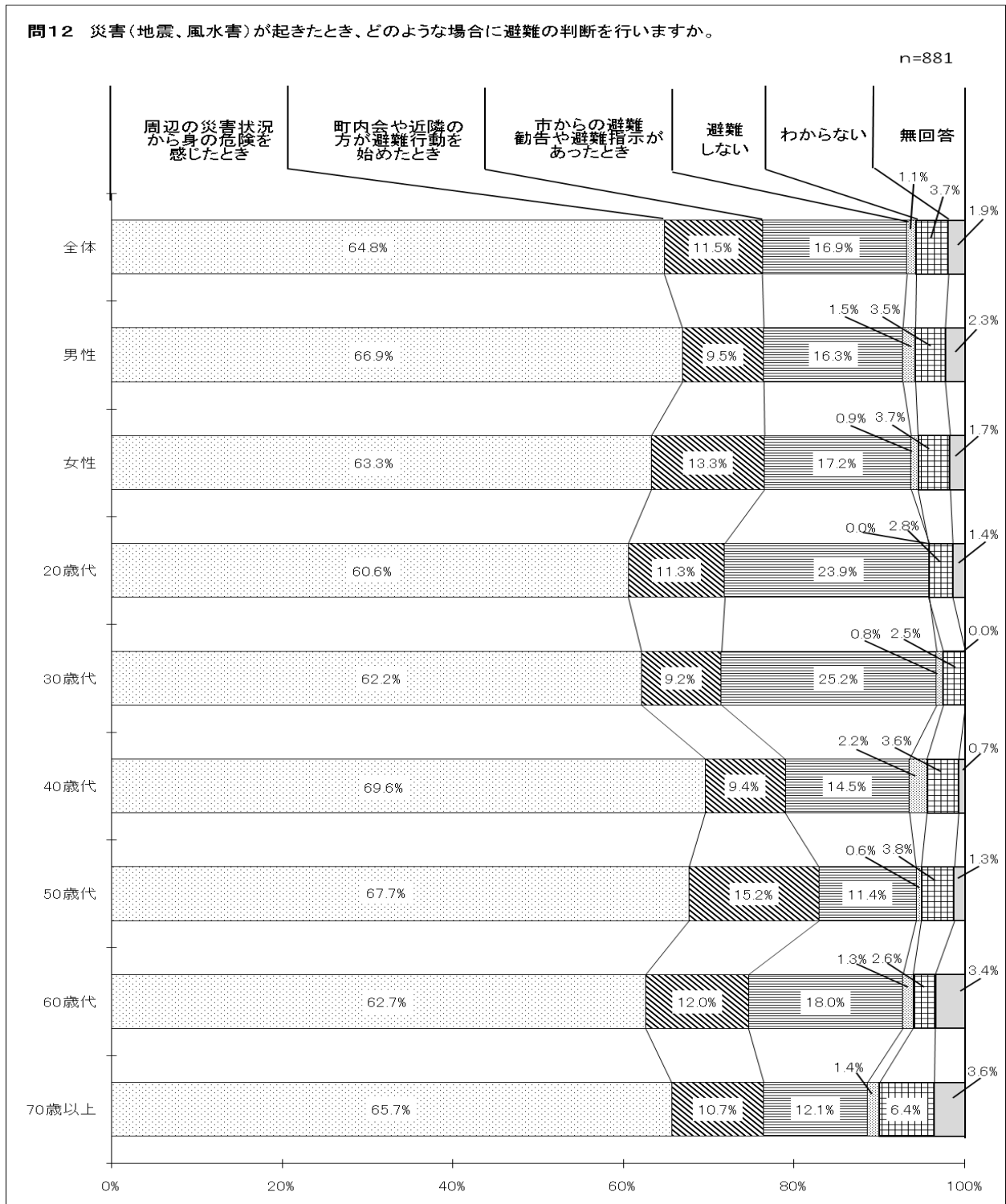
⑩ 災害に対する安全性



お住まいの地域について安全だと感じる方の割合は57.3%

お住まいの地域に対して安全だと感じる方と危険だと感じる方の割合は約2：1となり、性別や年齢によって大きな傾向の違いはみられませんでした。

⑪ 災害時の避難判断



自分達で避難の判断を行うと回答した方の割合は64.8%

どのような場合に避難判断を行うのかについては、自分達で判断するという方が64.8%で最も多い結果となりました。

自分たちで避難の判断を行うという方は性別や年代によって大きな差がなかったのに対し、市役所の避難指示などを受けて避難するという方は50歳代の11.4%から30歳代の25.2%と年代によって開きがある結果となりました。